

## 5. 住民がつくる自立した 地域コミュニティの形成に関する 調査研究

### (1) 背景・目的

地域社会における「コミュニティ」は、防災や高齢者の見守り等様々な場面で、その役割の重要性が認識されています。しかし地域の自治会・町内会等既存の地縁組織の多くは、加入者・活動参加者の減少等の課題を抱えています。

一方地域内には、エリアでなく「テーマ」を共有して集まった人々の活動も存在します。子育てや高齢者の暮らしの助け合いを目的とする住民の自主活動などが一例です。

これらの活動は課題解決を目的としており、「地域コミュニティ」を必ずしも意識していません。しかし、地縁組織のものとは別であるにせよ、住民による地域内での活動であり、一定の人間関係が築かれています。

本調査研究では、この「課題解決のためのテーマ型コミュニティ」に着目しています。これらの活動が活発に行われていく中で、地域コミュニティが活性化していく可能性を探ります。また、自治体と自治体職員は、住民活動や地域コミュニティの活性化にどのように関わっていくことができるのかを考察します。

この調査研究では、「地域コミュニティの活性化」を、「地域の中で人の交流がなされ、助け合いができる関係があるなどの共同体が形成・再生・活発化されること」と考えました。

#### 【様々な住民活動の事例から得られる、活動の活発化・行政の関わり方へのヒント（例）】

住民活動を活発にする秘訣	住民活動への行政の関わり方
地域住民が日常的に集える「居場所」作りやその運営	場所の提供・設置支援、参加者を広げる工夫
多様な住民を巻き込む「道具」や「仕掛け」の活用	住民の様々な「道具」利用への柔軟な支援
各活動に適した組織形態の選択 (NPO法人化から緩やかな集まりまで)	組織づくりへの支援、様々な主体を支援できる仕組み
若年世代、現役世代が地域に関わるための働きかけ	中学・高校生の参加を得る学校との協力体制
住民の「自分たちのまちは自分たちでつくる」という自立意識	自発性・自主性の尊重、協働の姿勢
住民それぞれの得意分野を生かした役割分担	行政（職員）の業務分野や得意分野を活かした役割への参加
様々な住民組織の連携や役割分担	広い視野での情報収集・提供、きっかけや場の創出、行政内部の連携

### (2) 調査研究状況

#### ①自治体アンケート

多摩・島しょ地域の39市町村を対象に、地域コミュニティの状況、住民活動への支援や施策についてアンケートを実施し分析しています。

#### ②住民アンケート

多摩・島しょ地域の住民1,500人を対象に、地域コミュニティや地域における住民活動への考え方、自治体に期待することなどを調査し分析しています。

#### ③住民の自主活動へのヒアリング

活動のきっかけや方法、主体などは様々であっても住民の自主的な活動であるという事例について、活動当事者である住民の方へヒアリング調査を実施しています。同時に、その活動への行政の関わり方について、市区町村等にもヒアリングを実施しています。

#### ④有識者ヒアリング

地域コミュニティや住民活動に関する専門的な知見を得るため、有識者へのヒアリングを実施しています。

### (3) 調査研究の方向性

住民活動の各事例から活発な活動を実現している秘訣を探り、他の住民活動にも活かせる「ヒント」となるよう整理し一般化を図ります。さらに、住民活動への行政の関わり方についても「ヒント」を読み取り、アンケートの結果を踏まえ、提示していきます。

下記の表には、その例を示しています。

## 自転車とまちづくりに関する調査研究 結果発表シンポジウムの実施報告

【平成27年7月22日 府中グリーンプラザ】

当調査会では毎年度、市町村の自治に関する調査研究を行っています。このシンポジウムでは、昨年度の「自転車とまちづくりに関する調査研究」の成果を踏まえて、自転車の利用促進と適正利用を両立させ、自転車が有する様々なメリットを活かしたまちづくりを推進するための方策等について考えることを目的としました。約150名の住民の皆様や自治体職員にご参加いただき開催したシンポジウムの模様を報告します。（次頁に調査研究報告書の解説を掲載）



▲シンポジウム会場の様子

### 1. 基調講演

はじめに「自転車をまちづくりに活かす～その基本と実践」と題して基調講演が行われました。ここでは、(株)三井住友トラスト基礎研究所研究理事の古倉宗治氏に「自転車とまちづくり」の全体像をお話いただきました。そのなかで、観光振興などの自転車活用のメリットや、高齢者に適した安全対策の考え方などとともに、市民目線での自転車施策の必要性などについてお話いただきました。

### 2. 調査研究結果発表

続いて、平成26年度に当調査会が行った「自転車とまちづくりに関する調査研究報告書」をもとに発表を行いました。そのなかで、多摩・島しょ地域住民の自転車利用状況や、今後の見通しなどを説明しました。そして、自転車を活かしたまちづくりの将来像の描き方のポイントを説明しました。

### 3. 自転車ライフの紹介&実演

続いて、サイクルライフナビゲーターの絹代氏から、「カラダとココロに効く自転車のとっ

ておきの魅力」と題して、自転車ライフの紹介と実演を行っていただきました。そのなかで、自転車が運動に適したものである理由や、運動の達成感がメンタルヘルスにもたらす効果について、本物の自転車を使用してお話いただきました。



▲自転車ライフの紹介&実演の様子

### 4. パネルディスカッション

これまでの講演や報告内容を踏まえ、「多摩・島しょ地域における自転車とまちづくりの豊かな未来像を語り合う」と題してパネルディスカッションが行われました。ここでは、外国人向けサイクリングツアー事業を手掛ける肥塚由紀子氏と、自転車先進都市である金沢市で自転車政策に携わる前野真和氏の取組内容をご紹介いただき、前記の古倉氏・絹代氏とともに活発な意見交換が行われました。

そして、来場者に対して「自転車を楽しむ」「自転車の視点でまちづくりを考える」といった実践の第一歩を踏み出すことを提案し、シンポジウムを結びました。



▲パネルディスカッションの様子

### 5. シンポジウムを終えて

今後、高齢者から子どもまで、安全・快適・便利に自転車が活躍するまちづくりへの取組が進んでいくと思います。